

NITTO KOHKI CO.,LTD.

Social & Environmental
REPORT
2018

日東工器 2018年 社会・環境報告書

地球環境への取り組みを通じて

社会的責任を果たし

持続可能な社会を追求します

編集にあたって

発行目的と編集方針

日東工器株式会社の社会・環境への取り組みと現状を株主やお取引先をはじめとするステークホルダーの皆様にご理解いただき、皆様とのコミュニケーションを深めていくことを目的としています。社会貢献活動や環境負荷についての指標を中心に、正確で透明性の高い情報開示をモットーに編集を進めました。また、2015年から「社会・環境報告書」といたしました。財務情報、企業情報について詳しくお知りになりたい方は、Webサイトをご覧ください。

<http://www.nitto-kohki.co.jp/>

対象期間

2017年4月～2018年3月

対象範囲

原則として、日東工器株式会社としています。また、参考としてグループ会社の栃木日東工器株式会社、白河日東工器株式会社、株式会社メドテックおよび海外グループ会社の環境負荷の状況報告を含んでいます。

発行時期

- 発行日：2018年5月9日
- 次回発行：2019年5月予定

日東工器では2010年から環境報告書を発行しています。

ガイドライン（参考）

- 環境省
「環境報告書ガイドライン（2012年版）」

お問い合わせ先

- 日東工器株式会社 ISO推進部
- TEL：03-3755-1111
 - FAX：03-5700-7192

後発事象

2018年4月1日以降、発行日現在までの後発事象はございません。

日東工器シンボルマーク（裏表紙参照）

日東工器のイニシャル「N」に無限大の記号「∞」を重ね合わせた「無限大マーク」の外側にタービンを図案化して配したものです。「無限の可能性を信じ、常に知性と勇気が生む強いパワーによって回転し、前進する」との企業姿勢を象徴しています。

免責事項

この報告書には、日東工器の過去と現在の実事だけでなく将来についての計画、予想および見通しの記述が含まれています。これらの記述は、現時点で入手した情報に基づく仮定ないし判断であり、諸条件の変化によって将来の事業活動の結果や事象が予測と異なる可能性があります。

Contents

編集にあたって	1
Top Message	2
Topics	
①ISOマネジメントシステムの更新展開	3
②家族参観日	5

Chapter 1 経営

Part 1 企業統治/内部統制	7
社是・社訓・経営方針/取締役会および内部統制の役割/ コンプライアンスの整備・運用状況/ BCP(事業継続計画)に基づくマネジメントの状況/防災の取り組み	
Part 2 事業分野・財務状況	9

Chapter 2 社会への取り組み

Part 1 お客様とともに	11
営業部門の取り組み/YouTubeに公式チャンネルを開設	
Part 2 学生との関わり	12
会社説明会から入社まで/ インターンシップによる学生の受入	
Part 3 社員および家族との関わり	13
国内グループ会社対抗ソフトボール大会/社員向け決算発表会/ ライフプランセミナー/初心者のためのマネープラン基礎講座/ 創立記念式典/「社員会」活動紹介	
Part 4 地域との関わり	15
エコフェスタワンダーランド/各清掃活動/ 下町ボブスレープロジェクト	

Chapter 3 環境への取り組み

Part 1 日東工器が目指す環境経営	17
Part 2 品質・環境方針 品質・環境マネジメントシステム	17
Part 3 製品含有化学物質への取り組み	18
環境に関する法規制順守状況/グリーン調達/ 環境教育の実施状況	
Part 4 地球温暖化対策・廃棄物の削減	19
地球温暖化防止に向けた活動/廃棄物の削減	
Part 5 環境への影響について	20
Part 6 製品開発	21
自社製品コンセプト/環境配慮設計/ NITTO KOHKIモノがたり	
ECO Topics	22
Part 7 生産部門の取り組み	23
生産改善小集団活動成果発表会/ 国内生産グループ会社の改善活動/ 海外生産グループ会社のCO ₂ 排出量と電力使用量	
Part 8 オフィスの取り組み	25
Part 9 生物多様性への取り組み	26
やまがた絆の森プロジェクト	

社会と環境を踏まえた モノづくりを 継続していきます。

日東工器株式会社 代表取締役社長

小武 尚之



社会・環境対応への取り組み

当社は創業から半世紀余にわたり、一貫して独創的な省力・省人化機器の事業化を追求してきました。一方、現在のメーカーには「商品を作って売る」こと以外にさまざまな要求への対応が、当たり前のこととして強く求められています。

2015年9月「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が国連サミットで採択されました。これは2030年までの国際社会共通の目標です。17件の開発目標のうち、12件が環境に関連し、7件はメーカーが関与します。企業活動が国際社会の環境対応と連動する世の中となっています。

当社も、長年産業界の発展に貢献してきたメーカーとして、事業活動での環境負荷の軽減や、製品を通じた地球環境への貢献を推進しています。

事業活動とISOマネジメントシステム

日東工器グループは、各社がISO9001（品質マネジメントシステム：QMS）およびISO14001（環境マネジメントシステム：EMS）を認証取得し、運用してきました。長年同様の運用を続けると、当初有効性があつたシステムも徐々に形骸化し、弊害が生じます。このことはISO（国際標準化機構）もシステムの問題点として認識され、実際の仕事における有効性を高めるべくQMSとEMSが2015年度版規格として同時に改定されました。

当社は2004年からEMSを全社で運用してきましたが、QMSは各商品事業部がそれぞれ認証取得しての運用でした。そこで今回のISO規格改定を機会と捉え、全社展開を図りました[※]。2015年度版規格は、複数のマネジメントシステムを統合して運用しやすい構造となっています。従来、全社で運用しているEMSと、新たに統合・拡大して全社展開するQMSの組織を整合させ、EMSとQMSを統合することで効率的な運用を図りました。

事業活動とISOマネジメントシステムの整合化に関しては、2014年度からEMS活動を業務に密接した運用に移行し、2016年度にはEMSを2015年度版認証へ移行したため、既に

数年の運用実績があります。加えてQMSを導入することで、業務活動内訳の見える化・業務改善の促進をより図りやすくなりました。

日東工器グループ各社も、2015年度版規格への改定対応を順次進めています。

グリーン調達

現在日本の製造業における化学物質情報の伝達状況は、2015年10月に経済産業省の主導により開発された新情報伝達ツール「chemSHERPA」が、電機・電子機器業界を中心に導入・運用が始まっています。一方製造業界全体では、未ださまざまな種類とレベルによる情報伝達が行われており、残念ながら「chemSHERPA」に統一して情報伝達を行うには、まだ時間を要する状況でしょう。また化学物質情報を管理するシステムは、新たに「chemSHERPA」の情報保管・伝達管理を行えることが必要となります。

当社は現在、さまざまな業界動向を考慮し、また当社の化学物質情報の対応状況を踏まえながら情報管理システムの切り替えを進めています。

当社のグリーン調達管理体制を紹介します。当社は2004年より「グリーン調達基準（当初はガイドライン）」を作成し、グリーン調達活動を運用・実施しています。

日本工業規格「JIS Z 7201（製品含有化学物質管理）」が2012年制定され、当社もJIS規格に沿って従来のグリーン調達体制を見直し、2014年度に日東工器グループ「製品含有化学物質管理システム（CMS）」を構築、運用を開始しました。現在は5カ年の中期目標を掲げ、CMS体制構築を仕入れ先様と協力して推進しています。

これからも当社は、環境保全と法令順守を大切に、独創的な技術によるモノづくりを通じて、企業価値の一層の向上に努めてまいります。

[※]ISO規格改定への対応経緯については、Topics1「ISOマネジメントシステムの更新展開」（P3、4）を参照

ISOマネジメントシステムの更新展開

日東工器グループは、ISOマネジメントシステム規格改定を、
業務システム見直しの機会として今まで以上に有益に、効率的に運用します。

日東工器グループ各社は、数年前よりISO9001およびISO14001規格改定に合わせマネジメントシステムの有効活用を検討準備してきました。ここでは主に日東工器本社の取り組みを紹介します。

2014年度：2015年度版QMS（品質マネジメントシステム）およびEMS（環境マネジメントシステム）規格改定対応検討を開始、当初グループ内システム統合を含めたさまざまな構想を検討しました。日東工器本社を除く各生産会社はQMSとEMSを取得運用していましたが、本社はQMSをカプラ・機工・リニア各商品事業部でそれぞれ取得運用していました。結果としてまずは営業および管理部門を含む本社全体でQMS取得整備が必要でした。

2014年度下期：「QMS統合・拡大プロジェクト」を組織し準備活動を開始、メンバーは全社各部門から計25人が参加。参加メンバーの理解度に沿ったさまざまな規模の会合を開催して、システム構築と周知教育を行いました。構築の主なポイントは、「3商品事業部で運用中のQMS統合」「QMS適用範囲全社への拡大」「2015年度版規格へのマネジメントシステム更新」「運用中QMSのメリットを継続する」「全社運用中の

EMSとの統合」です。

2016年度：QMS統合と全社拡大に先行して、従来から全社運用のEMSを2015年度版へ更新（QMS拡大・統合前に、2015年度版規格への対応実施）。

2017年度：統合システムとして運用開始と統合認証審査（11月）認証取得。ただし統合拡大運用により顕在化した課題もあります。これらは2018年度にシステム改善対応で実施。

2018年度：部分的に未統合部分があったシステムをより統合を進める改定を実施しての運用開始、および課題の軽減対応を実施中。今後も継続的に見直し改善を進めます。

日東工器グループ各社もそれぞれ並行して2015年度版への認証更新と、統合運用を進めてきました。経緯はP4.「更新経緯図」で示しています。

QMSもEMSも、本質は「仕事を円滑に効率良く運用するための業務管理システム」です。ただしISOマネジメントシステムは、組織にとって運用しだいで毒にも薬にもなります。そのことを十分認識して、日東工器グループは有効・有益にISOマネジメントシステム運用を進めます。

日東工器ISOマネジメントシステム特徴概要

メリット

①QMSの高親和性

QMSは規格内容的に機械メーカー業務管理展開の親和性が高い。

②業務フローの見える化

QMS準備として、各部門の主要業務フローなどが見える化され整理された。

③改善要素の顕在化

QMSを全社拡大した結果、生産子会社を含めた機械メーカー責任業務と改善要素が顕在化した。

デメリット

運用による各部門・役割者の負担増

対策として、ISOマネジメントシステムの統合化・業務への融合化を進め活動負担を低減。

特徴

①二層内部監査

（従来取得運用部門：3商品事業部で実施）

- 1) 製品品質・業務品質を維持向上のため、従来細分化して実施していた内部監査は継続。
- 2) 合わせて全社内部監査を併用とした。

②ISO内部監査員会議・

ディスカッション

内部監査前にISO内部監査員会議で監査方針周知とスキルアップ教育を実施。内部監査後にISO内部監査員にフリートークで感想・工夫・要望をもらい、活動に反映。

布石

①システム整合化

メドテックと一体でQMS構築していた機工事業部は、QMS認証の分割化を実施。本社ISOマネジメントシステム構築のために、QMSとEMSの本社活動組織の整合化を図った。

②2015年度版へ移行

EMSの2015年度版認証移行を2016年度に実施し、2015年度版規格要求要素をQMS拡大・統合の前年度に準備・周知・運用済み。2017年度は、QMS未取得部門（営業・管理）への周知に注力できた。

③ベースに本来業務活動

EMS活動を2014年度より、本来業務活動の改善に舵を切っていたため、事業活動との整合性・QMS活動との統合が図りやすいベースがあった。



1 ISO委員会 2 ISOおよび品質管理責任者会合 3 グリーン調達委員会 4 内部監査 5 ISO内部監査員会議

日東工器グループQMS・EMS認証更新・運用組織更新経緯図

					日東工器						
海外工場		国内工場			商品本部				営業部門	管理部門	
NKIT (タイ)	栃木 日東工器	白河 日東工器	メドテック	機工事業部	カブラ 事業部	リニア 事業部	建築機器 事業部				
2014年度	QMS-1 2008	QMS-2 2008	QMS-3 2008	QMS-4 2008		QMS-5 2008	QMS-6 2008	QMS未取得部門			
	EMS-1 2004	EMS-2 2004	EMS-3 2004	EMS-4 2004	EMS-5 2004						
2015年度	QMS-1 2008	QMS-2 2015	QMS-3 2008	QMS-7 2008	QMS-4 2008	QMS-5 2008	QMS-6 2008	QMS未取得部門			
	EMS-1 2004	EMS-2 2004	EMS-3 2004	EMS-4 2004	EMS-5 2004						
栃木：QMS2015版更新／機工・メドテック：QMS分割認証											
2016年度	QMS-1 2008	QMS-2 2015	QMS-3 2008	QMS-7 2008	QMS-4 2008	QMS-5 2008	QMS-6 2008	QMS未取得部門			
	EMS-1 2004	EMS-2 2015	EMS-3 2004	EMS-4 2004	EMS-5 2015						
栃木：EMS2015版更新、統合運用／日東工器：EMS2015版更新											
2017年度	QMS-1 2008	QMS-2 2015	QMS-3 2008	QMS-7 2015	QMS-5 2015						
	EMS-1 2004	EMS-2 2015	EMS-3 2015	EMS-4 2015	EMS-5 2015						
白河：EMS2015版更新／メドテック：QMS・EMS2015版更新、統合運用／日東工器：QMS2015版統合・拡大認証、統合運用											
2018年度 (予定)	QMS-1 2015	QMS-2 2015	QMS-3 2015	QMS-7 2015	QMS-5 2015						
	EMS-1 2015	EMS-2 2015	EMS-3 2015	EMS-4 2015	EMS-5 2015						
タイ：QMS・EMS2015版更新、統合運用／白河：QMS2015版更新											
QMS 品質マネジメントシステム EMS 環境マネジメントシステム QMS+EMS マネジメントシステム統合運用 (ISOマネジメントシステム) 赤字は更新・変更											



日東工器
取締役商品本部長
QMS統合拡大構築
プロジェクトリーダー
森 憲司

2017年11月末に全社統合QMSを無事取得いたしました。事業部個々に取得していたQMSをひとつに統合し、全社で取得するためプロジェクトを発足。仕事の洗い出し、マニュアル・基準の作成・再構築、社内教育、プレ運用と、裏方の地道な仕事が今回の取得に結び付けました。



栃木日東工器
ISO事務局
飯島 勝

栃木日東工器では「品質に良いことは環境にも良い」と考え、ISO9001：2015ならびにISO14001：2015の活動を進めています。両規格の統合審査も3年目となり、今後さらに統合度合いを向上させ、事業計画達成のための経営ツールとしてISO活動を有効なものとしています。



白河日東工器
品質保証課 課長
鈴木 善彦

白河日東工器は、2011年に環境認証ISO14001を取得してから、事業活動を通じて、電気量とゴミ排出量の削減など環境、資源保護を目的として活動を進めています。今後は、2015年版を通じてさらなる改善に取り組む予定です。



メドテック
技術部 部長
古木 佳文

2017年度より2015年度版移行に合わせISO9001と14001の統合を同時に行い、進めてきました。新しい要求事項では、「事業とISOの一体化を図ること」が重要とされており、リスクと機会、システムのスリム化を考慮し、今後の経営向上に貢献したいと考えています。



NKIT (タイ)
Senior General
Manager
SITTHIPONG
PULPHOL

ISO14001を取得してエネルギー使用量やゴミ分別によるリサイクル対応状況などを毎月管理集計し、省エネ・省資源への取り組みを継続しています。また日東工器グリーン調達基準に基づいて、全ての購入先に対して環境負荷物質管理・低減活動を推進しています。



Topics

2

社員とそのご家族が安心して暮らしていけるように、より良い職場環境を目指します。

第6回 家族参観日

日東工器グループでは、社員が安心できる職場づくりに力を入れています。

社員と家族に、家族参観日を通じて会社を理解していただき、信頼される企業を目指しています。

2017年は、日東工器グループの生産会社として、メドテックが初めて家族参観日を実施しました。

家族参観日のプログラム開始前に行われている子ども向けの工作コーナー。これを楽しみに参加する子どもも多く、隠れたメインコンテンツとの呼び声も高いです。回を重ねるごとにクオリティが上がっています。今回は「イソギンチャク」と「プリンカップ風鈴」を作りました。



参加した子ども全員に作っているオリジナルの名刺。今回から裏面にもイラストが追加され、こちらも毎年完成度が上がっています。うれしさのあまり、参観日の翌朝も家庭内で名刺交換が繰り広げられているとか。

子ども用のスタンプラリー。4つのミッションをクリアして全てのスタンプを集めると、すてきなプレゼントがもらえます。毎年みんな楽しみながらスタンプを集めています。



家族参観日ははじめました

「次世代育成支援」の一環として2012年に「子ども参観日」として始まり、毎年夏の恒例イベントとなった「家族参観日」(2016年に名称変更)。第6回目となる2017年は、過去最多となる15家族・36人(子ども19人)が参加し、これまでの参加者数は延べ130人(子ども74人)となりました。

このイベントは、参加者に楽しんでもらう以外に、次の3点に主眼を置いています。

- 1) 子どもたちの勤労観や職業観を育む
- 2) 幅広い世代の家族に、当社と仕事を理解していただく
- 3) 仕事と子育てを両立しやすい職場環境づくり

参加者の年齢は、生後数カ月の乳児から60代のご両親までと幅広いため、子ども向けと大人向けでプログラムを分けて実施します。「製品紹介」「社内見学」「燃料電池自動車MIRAIの紹介」は子ども・大人共通ですが、子ども向けプログラムは「工作」「名刺交換」「スタンプラリー」「お父さんお母さんのデスク訪問」など、遊び感覚で参加できる内容を用意しています。

実際に日東工器の製品に触れて、動かしてみたりしました。子ども同士で名刺交換の練習をした後、お父さんとお母さんの職場で社員と名刺交換を行い、デスクに座ったりもしていました。職場のお父さん・お母さんは、いつも家で見ている姿と違って見えるのか、ランチタイムでは誇らしげに会話をする姿が見られました。

大人向けプログラムは、「当社の経営方針」「事業内容」を説明します。経営状況や技術力を理解いただくことで、会社の信頼性向上を図ります。

家族参観日がコミュニケーションの一助となったのか、内定学生のご両親からは「日東工器について子どもと話すきっかけになった」という声をいただきました。

今後も、家族の皆様の日東工器を見て、理解してもらい、社員が安心して働けるように内容を充実させながら、「家族参観日」を継続していきたいと考えています。

メドテック 初めての家族参観日

メドテックでも、初めての「家族参観日」を実施しました。参加した子どもたちからは、「お父さんお母さんの会社が何をしているか分かった」「会社でどんな仕事をしているか分かった」「普段見られない大きな機械が見られてうれしい」などの喜び

の声を聞くことができました。

参加者は大人を含めて合計29人、家族参観日は家族の関心が高く、予想を上回る人数となりました。



Part

1

すべてのステークホルダーに誠意を尽くし、信用を蓄積し続けます。

企業統治（コーポレートガバナンス）/ 内部統制

日東工器において、コーポレートガバナンスの目的は、継続的に企業価値を高めていくためのものとの認識に立ち、適時適切な情報開示によって透明性を確保できるよう、経営の監視が適正に機能するよう努めていきます。

社是・社訓・経営方針

社是

開発は企業の保険なり

社是にある「開発」には

4つの意味が含まれています。

1. 社会に貢献する製品開発
2. 販売市場の開発
3. 人材開発
4. 組織管理体制の開発

これらの開発に全力を尽くすことが、会社の経営体質を強化し会社の永続的發展を保証する。すなわち「保険」であるということです。

社訓

- 創意を発揚し技術を蓄積しよう
- 鋭気を涵養し活力を蓄積しよう
- 誠意を尽くし信用を蓄積しよう

職場は社員の人格形成の場であり、すばらしい人生を送ってもらいたいという願いを込めた社訓で、社員の行動規範を示しています。

「技術」とは職務上の技術と能力のことで、「活力」とはファイト盛んな心身の活動力です。

また「信用」とは社会的信頼を得る力です。

これら「技術」「活力」「信用」のバランスを保ちながら蓄積していくことで、社員が人間的に成長し、ひいては会社の発展につながります。

経営方針

- 社会への貢献
社会に役立つ価値ある製品を開発、製造、販売し広く社会に貢献することを目指す。
- 従業員の幸福
経営活動を通じ従業員とその家族が幸福になることを目指す。
- 会社の発展
「社会への貢献」「従業員の幸福」を実現するために、適正な企業利潤を追求し企業の発展を目指す。

取締役会および内部統制の役割

取締役会は、2018年3月現在11人の取締役で構成され、毎月、定例取締役会を開催しています。また、必要に応じて臨時取締役会を開催しています。

取締役11人のうち2人は、会社との利害関係がない社外取締役であり、弁護士や公認会計士など企業価値向上のために客観的な判断ができる人を選任しています。

取締役会において、業務を執行する取締役は、会社が成長するために必要な提案を積極的に行います。社外取締役は、その提案について中長期的な企業価値向上の観点から意見を述べ、十分に審議をした上で決議をしています。また取締役会は、会社法に基づく業務の適正を確保するための体制の整備について決議します。

内部統制システムの基本方針は、ホームページ「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」で開示しています。

当社は内部統制システムを整備し、適切に運用することにより社会

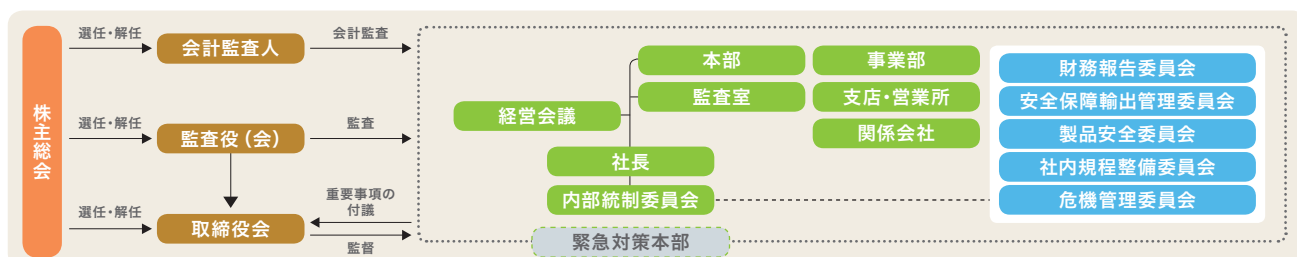
の責任を果たし、企業価値の向上を図ります。

監査室は、独立した内部監査部門として社内全部門を網羅的な計画の基に、統制活動・リスク分析・情報伝達・業務改善・法令および社内規程の順守状況を客観的に評価し、経営の健全化・合理化に資するための監査を実施しています。2018年3月現在、法規制の違反や利害関係者からの要求および苦情の報告はありません。

監査役会は、2018年3月現在3人の監査役で構成され、そのうち2人が社外監査役です。監査役は取締役会のほか重要な会議に出席し、取締役の任務遂行について厳正な監視を行うとともに適切に意見を述べています。

監査役は、各取締役・会計監査人・監査室（内部監査）と連携・情報収集を行います。そこで収集した監査に必要な情報をもとに毎月、定例監査役会を開催、審議を行い、必要に応じて経営改善のための提言などの措置を取っています。

内部統制システム組織図



コンプライアンスの整備・運用状況

● コンプライアンスへの取り組み

日東工器グループは、企業理念に基づき、法令順守はもとより社内規程・企業倫理・社会規範に則り、良識をもって行動するための基本事項を定めています。これを適切に運用し、コンプライアンスの徹底と社会的信用の向上を図ります。

● コンプライアンス教育

2018年1・2月に全管理職と個人情報取扱者を対象とした「個人情報保護法について」の研修会を開催しました。お客様に関連する内容なので、間違いが起こらないよう、万全の教育

を行っています。

2015年7月より「コンプライアンスに関するメールマガジン」を毎月、全社員に配信・周知しています。今後もコンプライアンス教育を実施していきます。

● コンプライアンス相談窓口

日東工器グループは「内部通報窓口」として社内、社外それぞれにホットライン（通報・相談窓口）を設置しています。あわせて内部通報規程やポスターなどで、社員に「内部通報窓口」を周知しています。

BCP（事業継続計画）に基づくマネジメントの状況

危機管理委員会は、総合的なBCM（事業継続マネジメント）の一環として、海外治安・自然災害・感染症・事故の災害リスクなど、必要に応じた緊急対応の検討を行っています。

2011年に発生した東日本大震災の早期復旧体制や、タイ国の大洪水で生じた工場浸水による一時的な国内工場への生産シフトの経験から、お客様への影響を最小限とする体制を構築しています。また、自然災害に備えて拠点ごとにリスク評

価と訓練の実施、海外治安情報の伝達、インフルエンザ対策、規程類の見直し、非常用品の備蓄を計画的に行っています。

当社の事業継続マネジメントに対する取り組みを利害関係者に理解していただくため、BCM体制をホームページの「事業継続マネジメント」で公開しています。今後は、より体制を充実させるため、製造業としてさまざまなリスクを想定し、代替生産の充実や、物流リスクの低減を検討していきます。

防災の取り組み

本年度は2017年11月に、全国の社員を対象とした安否確認訓練とともに、本社では防災訓練を実施しました。

防災訓練は、消防署の指導のもと、自衛消防隊[※]約50人を含め総勢約290人の社員が参加。過去数年と同様、強い地震の発生後、火災が発生したため屋外へ避難するというシナリオで実施しました。

防災訓練と併せ消防署から、「地震ザブトン」と「はしご車」を用意していただきました。「地震ザブトン」とは国内で実際に発生した地震の揺れを再現し、揺れる室内の映像と連動して椅子が動き、地震の揺れが体感できるシミュレーターです。中でも同じ東日本大震災の揺れが、宮城県と東京の高層ビルの長周期振動ではまったく異なっていたことには驚かされました。「はしご車」は実際に先端のかごに乗せていただき、30メートルの高さを体験。現場作業の大変さを実感しました。

自衛消防隊は警備会社から更新され

た最新のAEDの使い方を、応急救護班は消防士からけが人の搬出方法を、教えていただきました。今回の訓練は各種防災体験と併せ、専門知識の習得ができ、例年以上に充実した訓練となりました。

本年度で8年目を迎えた救命講習会（普通・上級）を2018年1月に実施し、本社社員33人が受講しました。今後も継続して、さまざまな防災活動に積極的に取り組んでいきます。



※自衛消防隊は5班（通報連絡班、初期消火班、避難誘導班、安全防護班、応急救護班）で構成

作業の省人化・省力化を軸に産業の未来を創造します。

事業分野・財務状況

日東工器は「開発は企業の保険なり」を社是に、独創的な技術による事業活動を展開してきました。モノづくりを追求するメーカーとして「時代のニーズに応じた製品開発」「信頼性が高く独創的な技術」を基本とし、半世紀以上にわたって事業を営んでいます。

事業は以下の4分野です。

- ①25,000種におよぶ迅速流体継手「カブラ」
- ②鋼材穴あけ加工機「アトラ」や溶接のスパッタ取り工具「ジェットタガネ」などの省力化機械工具「ツール」、電動ドライバ「デルボ」
- ③リニア駆動などのコンプレッサ&ポンプとその応用製品「リニア」
- ④動力源不要のドアクローザ「オートヒンジ」

各事業ともその卓越した性能・品質によりいずれも高い顧客満足度を得ています。

社にある「開発」とは技術・製品だけでなく、マーケティング（営業）、人材育成などのイノベーション（創造的な変革）も意味しています。日東工器は、開発を軸とした経営によって、今後とも一層の成長・発展を目指していきます。

ドアクローザ（オートヒンジ）

電力などの動力源を必要とせず、開けたドアを油圧とスプリングで静かに閉めるドアクローザ「オートヒンジ」は、より快適で安全な生活空間を提供する、環境に配慮した製品です。

「開き戸用」の中心吊型・丁番型のアームレスタイプと「引き戸用」のスライディングクローザがあり、ドアの外観を美しく演出します。

高齢者や小さな子どもでも安全に扉を開けられるスライディングクローザは、バリアフリーの面からも注目され、一般住宅はもちろん、学校、医療施設など幅広い分野で採用されています。

ドア周辺機器にも安全性・省エネ性の要望が高まっており、用途に合わせた製品の開発を進めています。



迅速流体継手（カブラ）

空気・水・油・ガスなどの流体配管の“接続・切り離し”を簡単かつスピーディに行う迅速流体継手「カブラ」。世界のトップブランドとして、幅広い分野でさまざまな用途に活用されています。

生み出された製品群は25,000種類以上にのぼっており、業界ではトップクラスのシェアを誇っています。環境対応製品や、従来と異なる用途分野をマーケットに提案・提供しています。

機能やバリエーションはもとより、耐久性や信頼性においても高いレベルの要望に応えるため、流体工学や材料工学、制御技術、電気・電子技術などの最新技術を駆使し、時代の先端をいく高品質・高機能製品の開発を進めています。

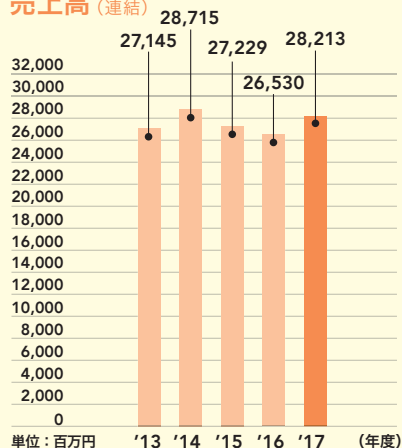


カブラ

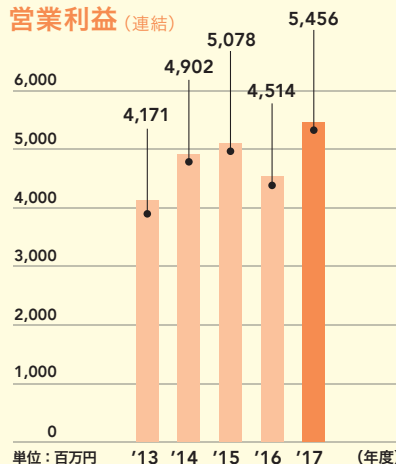
43.7%

財務データ（連結決算指標） 財務データの詳細は、ウェブサイトをご覧ください。 <http://www.nitto-kohki.co.jp/ir/library/>

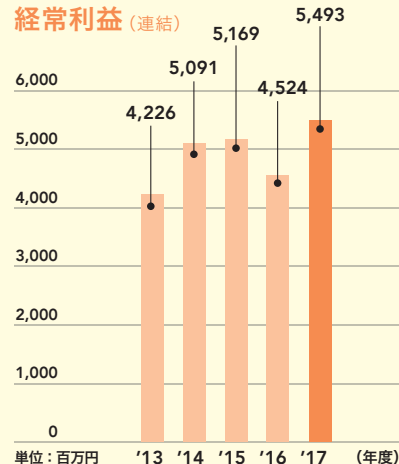
売上高（連結）



営業利益（連結）



経常利益（連結）



※財務データに関する記述は発行日時点での情報からの予測であり、実際の業績などは予測と異なる可能性があります

コンプレッサ&ポンプとその応用製品 (リニア)

小型・軽量・低作動音・低振動・クリーン・長寿命など多くの特徴を持ち、日東工器が世界で初めて実用化した製品・リニア駆動ポンプを中心に、電磁ダイヤフラム・DCモータ駆動・圧電素子駆動など、各種真空ポンプ&コンプレッサをラインアップしています。

これらの技術を応用し、浄化槽用ブロワや医療・家庭向けのエアマッサー器など、ユニークな応用製品も充実しています。その用途は産業機器をはじめ、医療・福祉、健康機器、環境関連機器などさまざまな分野へと拡大しています。



省力化機械工具と電動ドライバ (ツール、デルボ)

鋼材の切断・研磨・剥離・穴あけ・面取りなどさまざまな加工現場で使用されている機械工具。その加工形態、作業状況の多様化に合わせ、空圧・電動・油圧を駆動源とした製品群を準備しています。

「省力・省人化と作業環境の改善」というコンセプトのもと、パワーアップと小型化という不変のテーマに挑戦し続け、常にニーズの一步先に立ち、操作性や安全性・デザイン性・環境への配慮などを追求しています。

高精度のトルク管理を実現する電動ドライバ「デルボ」は、使いやすさと省エネ・低作動音を実現した信頼のブランドとして世界中で愛用され、デジタル家電・IT関連などの精密機器分野の組立て作業現場で、幅広く活躍しています。



オートヒンジ

7.8%

リニア

15.2%

ツール、デルボ

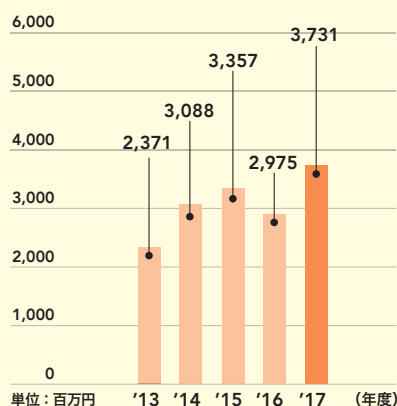
33.3%

4分野売り上げ構成比

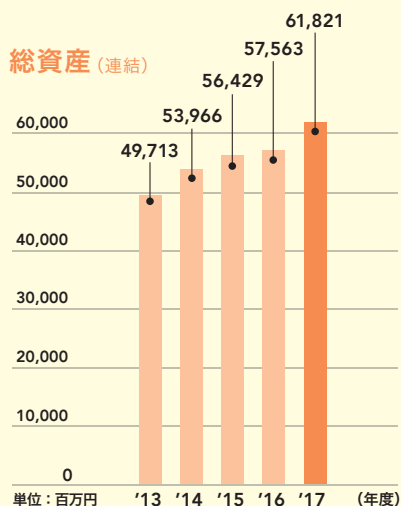
2017年度実績

(2018年3月期)

当期純利益 (連結)



総資産 (連結)



会社概要

商号

日東工器株式会社

設立年月日

1956年10月22日

本社所在地

東京都大田区
仲池上二丁目9番4号

資本金

18億5,032万円
(東証一部上場：機械)

従業員数

単体 415人 (連結 932人)

ISO14001認証の取得年月

2004年5月

ISO9001認証の取得年月

2017年12月

国内グループ会社

3社
栃木日東工器株式会社
白河日東工器株式会社
株式会社メドテック

海外グループ会社

6社
アメリカ、ドイツ、タイ、
オーストラリア、中国
(2018年3月31日現在)

社会への取り組み

Part

1

お客様への製品提案活動を通して環境負荷の低減を行います。

お客様とともに

日東工器グループは地球環境への貢献を目指し、環境配慮製品を含めた「提案型営業」を推進しています。

営業部門の取り組み

日東工器は、よりお客様に近い営業活動を目指し「環境配慮製品」を含め「提案型営業」を積極的に進めています。

地域密着型の展示即売会の「アタックフェア」、当社と販売店との二人三脚でお客様に合わせた製品の提案活動を行う「アタックキャラバン」、各種製品を備え付けたキャラバンカーでお客様に出向きミニ展示会を行う「出前フェア」を実施しています。「体感コーナー」では、製品を実際に見て・触れて・動かして、実感してもらえます。

これからも、日東工器製品群とマーケットを熟知した販売店で構成する、独自の販売・流通組織「日東会」と連携し、地域に密着したきめ細かな活動を展開し、社会との絆を大切に、お客様のためになる製品の普及に努めていきます。

2017年度実績

アタックフェア	25回
アタックキャラバン	88回 (196日)
出前フェア	258回

YouTubeに公式チャンネルを開設

日東工器のホームページには、製品の使い方を紹介する動画を掲載していましたが、もっと多くの方々に知っていただけるよう、日東工器の公式動画サイトをYouTubeに開設しました。国内向けは「Nitto Kohki JP Channel」、海外向けは「Nitto Kohki GLOBAL Channel」と、2つのサイトを用意しました。海外向けサイトは、世界各地のユーザーに向けて英語

以外に中国語やスペイン語でも掲載しています。これらのサイトから海外現地法人のwebサイトへアクセスすることもできます。

YouTubeは、販売拠点のない地域でも製品の動作や特徴を伝えることができる強力な営業ツールです。今後、より多くの製品動画を掲載し、魅力ある情報を発信していきます。

Nitto Kohki
JP Channel

Nitto Kohki
GLOBAL Channel

学生たちに日東工器の「モノづくり」に対する姿勢を伝えていきます。

学生との関わり

日東工器の採用活動では学生一人一人と理解を深め、ありのままの日東工器を知ってもらうことに重きを置いています。今後もインターンシップによる学生の受け入れや「働く現場説明会」など、学生との触れ合いを通じてモノづくり産業に貢献していきます。

会社説明会から入社まで

日東工器は、毎年約20人の新入社員を採用します。機械工具業界ではブランド力があり、知名度の高い当社ですが、就職活動中の学生のほとんどは「日東工器」を知りません。そのため、選考の過程では、学生一人一人との「相互理解」を重視しています。

学生の皆さんには、単に「良い会社」ではなく「自分に合う会社」を選んでほしいため、会社説明会では事業内容や製品だけではなく、「社是」「経営方針」「スローガン」についても説明します。

営業職・開発職社員による説明は、具体的な仕事内容への理解はもちろん、仕事への熱意や社内の雰囲気を感じてもらい良い機会となっています。職場や部活動用の屋上コートなども案内し、学生自身が当社で働くイメージを具体的に思い描けるよう工夫しています。

面接は少人数単位で実施します。また、最終面接後には人事担当者と面談を行い、お互いにしっかりと理解を深めた上で正

式内定となります。

機械メーカーである日東工器は、内定式の代わりに国内生産グループ会社3工場見学会を実施します。内定者には「モノづくり」に対する真摯な姿勢を理解してもらうことで、「モノづくり」メーカーに入社する心構えを醸成しています。

今後も、採用する学生一人一人の定着と活躍を見据えて、相互理解を重視した採用活動を実施していきます。



インターンシップによる学生の受け入れ

2017年8月末の1週間、理工系の学生を対象としたインターンシップを実施しました。6回目となる今年は機械・電気系専攻の大学3年生11人が参加しました。

「自分のアイデアを形にする・開発設計職を体験する6日間」というテーマの下、実際に改善のアイデアを出し、製品開発から生産まで、関係する一連の業務を体験しました。

製品開発ではテーマを与えられ、問題解決のブレインストーミングやディスカッションを行い、それを元に図面を描き部品を設計。3Dプリンタで製作し、製品に組み込み、効果を確認しました。併せて製品の分解・組立、流体解析・性能評価、3次元測定器を用いた精密測定など開発設計職に関わるさまざまな業務を体験しました。また、生産をコントロールする生産管理部門の講義も受けました。

生産工場である栃木日東工器では、工場の見学、組立作業や製品検査などの実習、「工場が開発者に求めること」をテーマにディスカッション・発表を行い、実際の生産現場について学びました。

参加した学生からは「自分の開発・設計したモノが形にな

り、動かせることはとても面白く、やりがいがある」「製品設計では寸法の公差や、部品の加工法、組み立てやすさなど、製造工程も意識する必要があることを学んだ」「ディスカッションや成果発表などで自分の考えをまとめ、伝えることの難しさと大切さを実感した」という感想があり、短い期間ながらも開発設計職のやりがいや生産現場の工夫など多くの学びがあったと感じています。



Part
3

社員とご家族が安心して暮らしていけるように、より良い職場環境を目指します。

社員および家族との関わり

日東工器グループは、社員の皆さんが安心できる職場づくりに力を入れています。社員向け決算説明会や家族参観日、社員向けライフプランセミナーなどを通じて会社を理解していただき、信頼される企業を目指しています。

国内グループ会社対抗ソフトボール大会

2017年9月に日東工器国内グループ会社対抗ソフトボール大会を白河日東工器のグラウンドで開催しました。例年春に開催する大会ですが、2017年は雨天による延期で9月の3連休初日の開催となり、50人を超える参加者が集まりました。

使用したグラウンドは、普段は専用グラウンドの無い地元高校の野球部に提供し、場所の有効活用を図っています。高校の野球部はグラウンド整備を行ってくれるため、双方でとてもいい関係を築いています。

大会は、取締役の開会宣言で始まり、午前・午後計4試合が行われました。大会のメインイベントともいえる恒例の昼食会では、白河日東工器の社員・ご家族によるカツカレーや豚汁、玉こんにゃくなどのおいしい食事が振る舞われました。昼食に舌鼓を打ち、再び勝利への意欲を高め午後の試合に挑みました。

表彰式では、1位～4位のチーム表彰と、各チームから選出されるMVPの表彰・賞品授与が行われました。賞品未到着のハプニングで、賞品を持ったフリをして行うエア―賞品授与でしたが、受賞者の演技に会場は大いに盛り上がりしました。

各社の若手からベテランまで、普段とは違った一面を見せるこの大会は、グループ会社間の交流を深める貴重なイベントとして、今後も継続していきます。



社員向け決算発表会

日東工器は年2回、社長をはじめ経営層による、社員向け決算発表会を本社で開催しています。

2017年は5月に「2016年度決算」、11月に「2017年度中間決算」の発表会が、決算発表当日に実施されました。社長や取締役から、市況や日東工器グループの連結決算総括について、売

上・利益・トピックスなどが報告されました。

日東工器は、グループ全体の業績・活動などの最新状況をトップ自らが自分の言葉で社員に伝えることで、全社一体となり事業活動を行っていきます。

ライフプランセミナー

日東工器グループの50歳以上の社員を対象とした、「老後を考えるライフプランセミナー」を、2017年10月に開催し、計20人が参加しました。

定年後の第二の人生においては、「生きがい」を持つことの重要性や、「健康」を維持するための工夫について学びました。また、余暇や地域活動の充実を図ることも大切であり、具体的な事例を紹介してもらいながら、今後の準備に向けてさまざまなヒントを得ることができました。参加者は、預金残高やローン残高、年金支給額に関する各自の家計状況を元に、定年後20年間の家計プランの収支計算などを演習しました。

参加者からは、「分かりやすい話で、定年後の生活を考える上で大変参考になった。家庭でいろいろ話し合ってみて

い」「老後の家計プラン設計にあたり、目標額がはっきり分かった」「生活の工夫で貯金が増加することを知り、貯金の大切さがよく理解できた」「定年後の人生を、長い期間で考えなければと改めて知ることができた」といった感想が寄せられました。

現在ライフプランセミナーには2回目、3回目の参加も推奨していますが、今後は配偶者同伴の参加なども検討していきます。



初心者のためのマネープラン基礎講座

2017年、福利厚生の一環として「初心者のためのマネープラン基礎講座」を2回開催し、20代、30代を中心として約100人が参加しました。

これまで、50歳以上を対象としたライフプランセミナーを開催していましたが、新たに入門編として、幅広い年代の社員を対象に、マネープランを作成するための基本的な内容を説明しました。

結婚やマイホーム購入に必要なお金の話・NISAや個人型確定拠出年金の仕組み・生命保険・私的年金プランの考え方など、普段学ぶ機会の少ない情報ばかりでした。

参加者からは、「今まで銀行預金をしていたが、さまざまな貯蓄方法があることを知った」「確定拠出など知らないことがたくさんあり、上手に活用していきたい」「今後のことを考えるきっかけになった」といった感想が寄せられ、満足度の高いセ

ミナーとなりました。

社員が、会社の退職金や福利厚生制度、社会保険などの理解を深め、積極的に活用できるよう、これからも情報を提供していきます。



創立記念式典

創立61周年の記念式典を、2017年10月20日に開催しました。式典では、社長からメッセージが伝えられ、活躍する社員をたたえ、21人に次の各賞が授与されました。

- ①生産現場のノウハウに贈られる「技術ノウハウ賞」
- ②改善提案活動に贈られる「改善提案賞」
- ③新製品のアイデアに贈られる「未来の実表彰」
- ④勤続30年目の社員に贈られる「永年勤続表彰」
- ⑤無事故無違反者に贈られる「安全運転表彰」



「社員会」活動紹介

日東工器には労働組合はありませんが、社員を代表して会社側と職場環境の向上や労働条件などを協議する「社員会」があり、組合に相当する活動を行っています。社員会と会社は毎月1回、定例協議会を実施。協議会を通じて、社員の意見を会社側に発信し、話し合いを行っています。

社員会発足後、長い歴史の中で近年の要望は処遇改善に加えて、育児や介護などライフステージの変化を迎えた社員が働

き続けられる「職場の環境整備」へと変化しています。少数の社員の意見も取り上げる社員会の存在は、社員の定着率の高さにもつながっています。

今後も時代に即したさまざまな改善、取り組みを通じて、健全で活気ある職場づくりを社員会・会社が協力し合い推進していきます。

Part

4

地域の皆様と良好な関係を築き、社会に貢献します。

地域との関わり

日東工器グループは地域の皆様と良好な関係を築き、共に成長していきたいと考えています。

今後も事業活動に加え、さまざまな活動を通じて地域や社会に貢献していきます。

「第17回 エコフェスタワンダーランドin蒲田 ～地域から考える地球の未来～」開催

2018年2月、今回で17回目となるエコフェスタが大田区西蒲田の区立おなづか小学校で開催されました。エコフェスタとは、毎年大田区主催で区内の小学校において、地域の団体・企業などが環境をテーマにした工作や展示などを行い、子どもたちに楽しく環境に触れてもらうイベントです。

日東工器は8回目の参加となり、恒例となった松ぼっくりのミニクリスマスツリー、自然の材料を使ったリース作り体験を実施しました。

●家族の絆が深まる！ミニクリスマスツリーとリース作り

当日は冬の季節を感じる肌寒い気候での開催となりましたが、ブースには大勢の人に来ていただきました。子どもたちが思い思いの飾り付けを楽しむ姿が多い中、一緒に来場した大人の方々も真剣かつ一生懸命作っていました。

「今年のクリスマスと一緒に飾ろうね」といった声も聞こえ、親子で一緒に作業を楽しんでいました。完成後は作品と一緒に笑顔で記念撮影。子どもたちの笑顔を見ると、メーカーの醍醐味でもある「モノを作ることの喜び」を感じてもらえたと思います。自分の力でモノを作ることが、子どもたちにとって大切な経験となるでしょう。



●キッズスタッフ大活躍！

お手伝いをお願いした2人の小学生キッズスタッフが今年も大活躍してくれました。作業の内容をいち早く理解して、テキパキとした動きで来場した子どもたちに優しく丁寧に作り方を教えてくれました。



●2年連続最優秀賞受賞！「環境フォトコンテスト」

エコフェスタでは、毎年参加団体が環境に関わる写真紹介をする、「環境フォトコンテスト」が行われています。これは応募写真の中から、来場者が投票するものです。なんと！昨年に続き2年連続で日東工器の応募写真が最優秀賞を受賞しました！



「2017年多摩川河川敷清掃活動～グリーンアクションたまがわ～」に参加

2017年5月、「多摩川河川敷清掃活動～グリーンアクションたまがわ～」に参加しました。この活動は1970年から東京都大田区が主催し、今回で48回目。区職員・関連団体・地域企業・NPO・自治会・地域住民が参加し、活動しています。日東工器は地域社会への貢献として、毎年参加しています。役員・社員（総勢20人）が、初夏を思わせる気候の中、参加者の皆さんと一緒に河川敷の清掃活動を行いました。もともとゴミが少ない河川敷ですが、参加者の皆さん全員の協力でより一層きれいになり、活動後は爽やかな気分になりました。



「大阪支店・地域との関わり」

大阪支店では、2011年から朝礼前の清掃活動をスタートし、2017年で7年目となりました。

月に2回の活動ですが、部署を問わず毎回多くの社員が積極的に参加しています。また、近隣住民の方々から「いつもありがとうございます」と笑顔で声を掛けていただくことが多くなり、清々しい気持ちで活動しています。

また、大阪支店に設置をしているAEDは、緊急時に子どもにも使用できるように小児パッド付きに変更しました。AEDマップへは未登録ですが、正面玄関に「AED設置」の看板を掲示し

て近隣の方にも分かるようにしています。

このような地域との関わりは、企業活動においてとても重要であると認識しており、有事の際にもお互いに助け合える関係を築きたいと思っています。

今後も、あらゆる側面から人を想う活動を心掛け、社会貢献を続けていきます。



「名古屋支店・地域との関わり」

名古屋支店では月に2回、社員を3班に分けて順番に支店周辺の清掃活動を行っています。

普段から、落ちているゴミに気付いた人は率先して拾うことを心掛けているため、目立つゴミは落ちていませんが、清掃活動に参加することで、近隣住民の方々との交流を深める機会としています。2015年12月に支店を移転して、新しい地域における清掃活動も2年以上となり、しっかり地域に定着した活動となりました。

また清掃活動は、地域の方々とのコミュニケーションだけ

でなく、社員間でも自然と会話が生まれ、支店内でのコミュニケーションも増え、職場環境の改善・向上に大きな役割を担っています。

清掃活動を通じて近隣住民の方々、また社員間のつながりを強くし、自然災害などの有事の際にも助け合えるようにしていきたいと思っています。



「下町ボブスレープロジェクト」に協賛

「下町ボブスレープロジェクト」は、大田区の町工場が中心となり、自分たちの技術力をアピールする目的で発足しました。日東工器は、地元・大田区の製造業を応援するため、2015年から「下町ボブスレープロジェクト」に協賛しています。

「下町ボブスレー」は、2018年平昌オリンピックに向けて製作し完成していましたが、オリンピックで走るところを見ることはできませんでした。残念な結果となりましたが、技術力を結集し世界へ向けてチャレンジする姿勢は、同じ大田区のメーカーとして共感します。



環境への取り組み

Part

1

環境と人に優しく、持続可能な経営を実現させます。

日東工器が目指す環境経営

ISO9001および14001を基に、製品開発・生産・営業活動・輸送・サービス活動など全ての業務活動において、環境と人に配慮し、顧客満足向上を図り、持続可能な経営を推進していきます。

Part

2

地球環境への負荷低減、顧客満足向上を重要課題とし、積極的に取り組みます。

品質・環境方針

品質・環境マネジメントシステム

品質・環境方針 〈ISO9001・14001〉

理念

日東工器株式会社は、産業界の省力化と作業環境の改善を不変のテーマとし、独創技術による高品質・高機能・高信頼性の製品づくりに邁進して来ました。

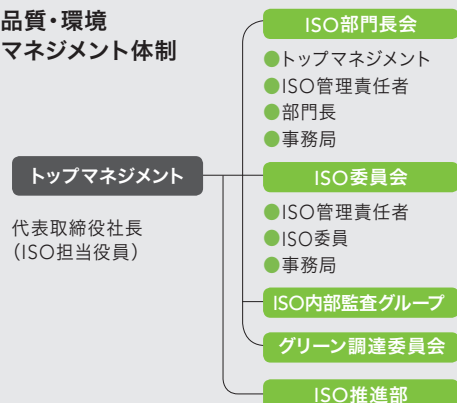
製品を通じた地球環境への取り組みばかりでなく、事業活動を通じて地球環境への負荷軽減、顧客満足向上が当社の果たすべき重要課題であると認識し、全ての面で社会的責任を果たします。

基本方針

- ①日東工器株式会社は、全従業員一人一人がISO(品質および環境マネジメントシステム)を有効に活用し、迅速流体継手「カブラ」、機械工具(空圧機器/油圧機器/電動機器)、空気圧縮機・ポンプおよびそれらの応用製品、建築機器(ドアクローザ)などの製品設計から販売までの業務および、それ以外全ての業務において製品品質保全を包括した顧客満足向上、環境保全に努めます。
- ②環境配慮の製品設計、グリーン調達・購入、省資源・省エネルギー、リサイクルの促進、廃棄物の削減などに取り組み、環境汚染の予防に努めます。
- ③企業活動における順守義務事項を順守します。
- ④品質および環境目標を設定し、運用し、定期的に内部監査・マネジメントレビューを行い、事業活動と整合した活動として品質および環境マネジメントシステムを継続的に改善します。
- ⑤企業活動における業務プロセスを明確化し、業務改善を図ります。
- ⑥この方針は文書化し、全従業員に周知徹底するとともに、社外からの求めに応じて公開します。

品質・環境マネジメント体制

品質・環境マネジメントを推進する体制として、ISO部門長会、ISO委員会、ISO内部監査グループ、グリーン調達委員会を設置し、ISO推進部を事務局としています。

品質・環境
マネジメント体制

品質・環境マネジメントシステムの運用状況

ISO9001およびISO14001に準拠した「品質・環境マニュアル」に基づき品質・環境マネジメントシステムを構築・運用しています。運用にあたり、以下のように実施しています。

- ①ISO部門長会の開催
ISO部門長会を3月初旬に開催し、次期のISO組織と役割、第三者認証審査などの年間計画、ISO内部監査結果の伝達などを行います。
- ②ISO委員会の開催
毎月各部門のISO実績報告により、目標に対する実施・進捗状況を確認します。また、ISO9001およびISO14001の維持管理と各部門への伝達などを行います。
- ③ISO内部監査の実施
年に2回、ISO内部監査員による各部門の監査を実施します。各部門のISO9001およびISO14001規格対応状況、ISO活動の業務における有効性、業務活動自体の効率性、弱点または優れた点を顕在化させ、改善を図ります。
- ④マネジメントレビューの実施
経営企画室長およびISO管理責任者は必要な情報を収集し、「ISOマネジメントレビュー報告書」を作成してトップマネジメントに報告します。この報告書に基づき、トップマネジメントは年2回3月と9月に定期レビューを行います。

環境と人に優しい安全性を追求します。

製品含有化学物質への取り組み

日東工器では環境法規順守・グリーン調達・製品含有化学物質調査・社員の環境教育などを通じて、より安全な製品を生産する仕組みを構築しています。

これにより、「環境と人に優しい安全な製品を、お客様に届ける」という製造メーカーとしての責任を果たしています。

環境に関する法規制順守状況

日東工器で制定した「グリーン調達基準」の全製品対応において、一部製品に規制値を超えた含有が確認されました。こ

の対応処置の詳細につきましては、ホームページに公開しています。その他、環境に関する法令違反・指導・苦情はありません。

グリーン調達

日東工器は、品質や価格だけでなく環境も配慮します。環境負荷ができるだけ小さい材料・部品・資材やサービスを、環境負荷の軽減に努める仕入れ先様から、優先して購入する取り組みを実施しています。

1) グリーン調達方針

グリーン調達方針は、方針を定める目的、適用する範囲などを制定し、日東工器に関わりのあるさまざまな人に開示して、日東工器の企業姿勢を表明しています。

2) グリーン調達基準

日東工器の生産活動にご協力いただいている仕入れ先様に、日東工器のグリーン調達の考え方と対応順守の要請を行う基準です。本文と日東工器の管理化学物質リストで構成され、仕入れ先様は日東工器のホームページからダウンロードできます。2004年に制定し、2018年4月現在8.3版を開示しています。

3) グリーン調達委員会

日東工器のグリーン調達活動を推進することを目的とした組織です。各商品事業部・生産本部・各生産拠点から委

員が出席し、毎月グリーン調達活動におけるさまざまな議案を討議しています。

2017年度の活動では、前年度から継続活動の結果、環境配慮設計評価を、全標準量産製品の約半数について再評価しました。また、仕入れ先様のCMS構築状況評価を引き続き実施する上で、日東工器独自の評価基準を策定し、必要に応じて改善依頼を行いました。

4) 日東工器の製品含有化学物質調査

JAMP^{※1}に会員として加盟し、2017年度は「AIS」「MSDSplus」^{※2}による調査管理を行っています。同様に仕入れ先様にも「AIS」「MSDSplus」による調査管理を依頼し、実施管理していただいています。今後、chemSHERPA^{※3}での管理へ移行することも検討しています。

※1 JAMP（アーティクルマネジメント推進協議会）：化学物質情報を適切に管理し、円滑に開示・伝達する仕組みを作り普及させるために発足した、製造業界横断の活動推進団体

※2 「AIS」「MSDSplus」：JAMPの作成した化学物質情報伝達ツール

※3 「chemSHERPA」：経済産業省が作成した化学物質の情報伝達ツール。「AIS」をベースに国際規格IEC62474に準拠している

環境教育の実施状況

2017年度の日東工器およびグループ各社の環境教育実施状況です。今後もさまざまな観点より、必要教育を実施します。

	日東工器		栃木日東工器		白河日東工器		メドテック	
内訳	開催教育数	延べ受講人数	開催教育数	延べ受講人数	開催教育数	延べ受講人数	開催教育数	延べ受講人数
合計	141回	1,424人	35回	386人	8回	67人	13回	220人
環境役割者教育	42回	140人	0回	0人	2回	2人	0回	0人
環境外部セミナー	17回	19人	0回	0人	1回	2人	3回	3人
専門者教育	1回	1人	6回	44人	0回	0人	1回	11人
新人環境教育	19回	34人	2回	7人	1回	2人	2回	4人
環境一般教育	57回	834人	20回	273人	3回	54人	2回	8人
緊急事態訓練	5回	396人	7回	62人	1回	7人	5回	194人

Part
4省エネ・省資源に努めCO₂ 排出量を削減していきます。

地球温暖化対策・廃棄物の削減

日東工器は環境方針に則り、リデュース・リユース・リサイクルの推進を通して、コスト削減と環境保全を両立し、地球温暖化防止のため省エネ・省資源への取り組みを推進しています。

地球温暖化防止に向けた活動

●地球温暖化防止に向けた活動

日東工器はこれまでに、環境に配慮した製品の開発、空調温度の管理と設備の高効率化、LED照明、電力のピークカット、ハイブリッド車の導入とエコドライブの励行、ペーパーレスシステムの構築、コピー用紙の削減、資源のリサイクルなど、さまざまな取り組みを行ってきました。

一つ一つは小さな効果ですが、それらを積み重ね少しでも地球環境改善に貢献できるよう、各部門で自分たちのできる活動は何かを考え、目標を設定し、活動を続けています。

●CO₂排出量

2017年度の日東工器CO₂排出量の実績は、841tとなり2016年度に比べて79t減少しました。日東工器のCO₂排出量の割合は、電力によるものが約72%、自動車用の燃料が約20%と、この2つで約92%を占めています。

なお、CO₂以外の温室効果ガスについては、排出していません。(図1参照)

●電力使用量

2017年度の日東工器の電力使用量は、1,775千kWhと前年度に比べ174千kWh減少しました。実験設備の稼働状況と、地道な省エネ活動などによるものです。(図2参照)

廃棄物の削減

●廃棄物排出量

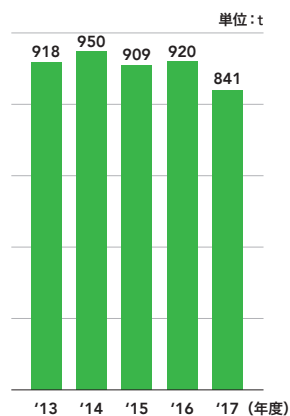
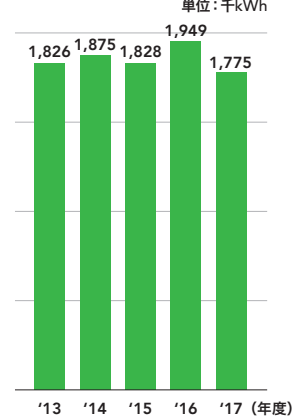
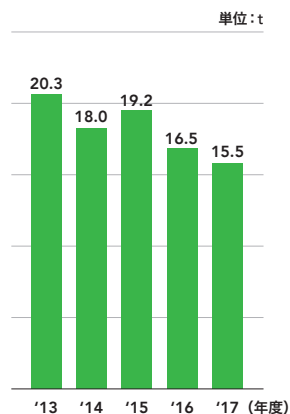
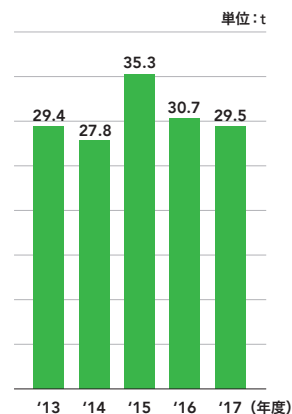
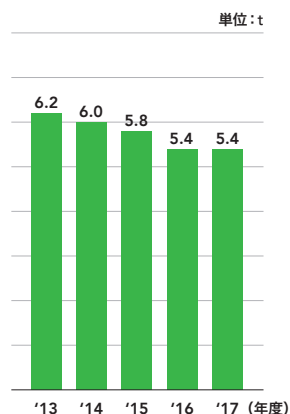
2017年度の日東工器の廃棄物量は、15.5tと前年度に比べ1t減少しました。廃棄物は廃棄時に材質などから14種類に分類し、できるだけ後工程に負荷をかけずリサイクルできるように対応しています。(図3参照)

●紙類リサイクル量

2017年度の日東工器の紙類のリサイクル量は、29.5tと前年度に比べ1.2t減少しました。(図4参照)

●コピー用紙使用量

各部門の業務改善の積み重ねや、裏紙の再利用などによるコピー用紙の有効利用が浸透していますが、2017年度コピー用紙使用量は、5.4tで、前年度と同じでした。(図5参照)

CO₂ 排出量の推移 (日東工器)
(図 1)電力使用量の推移 (日東工器)
(図 2)廃棄物排出量の推移 (日東工器)
(図 3)紙類リサイクル量の推移 (日東工器)
(図 4)コピー用紙使用量の推移 (日東工器)
(図 5)

環境負荷の低減を目指し、環境への影響の「見える化」を、継続的に取り組んでいきます。

環境への影響について

日東工器の国内拠点において、2017年度に投入したエネルギー量・水資源量・原材料その他購入品の量と、排出した環境負荷量・廃棄物量・リサイクル量および製品として出荷した量は以下のとおりです。



エネルギー



原材料



水



製品



二酸化炭素



リサイクル



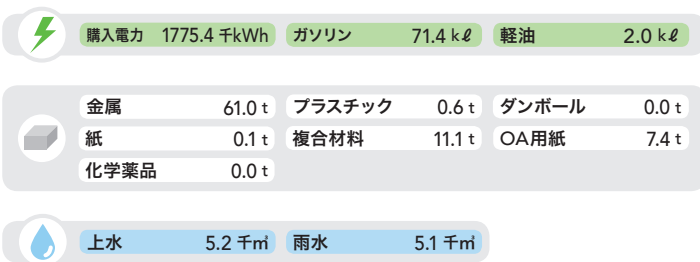
廃棄物



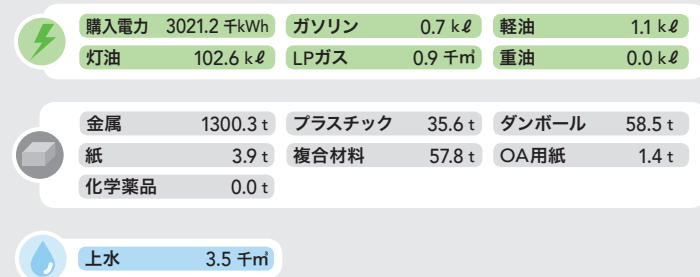
排水

INPUT

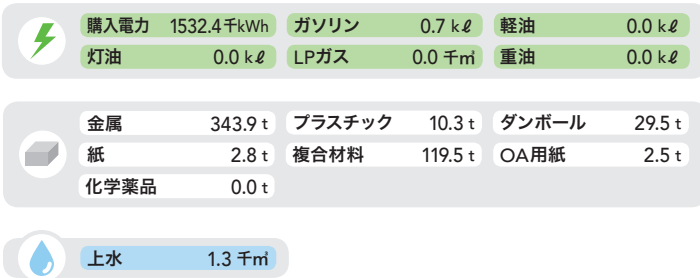
日東工器株式会社



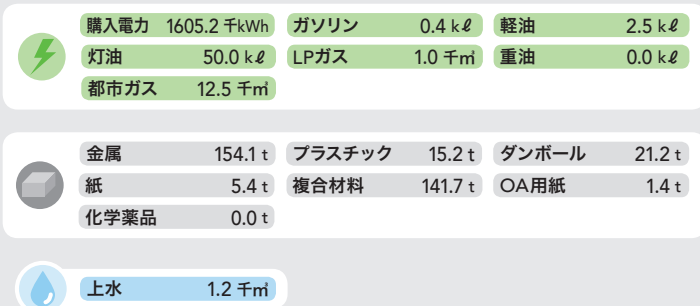
栃木日東工器株式会社



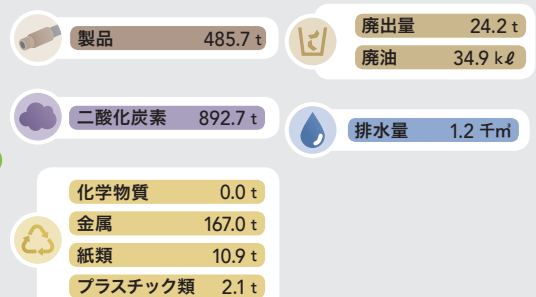
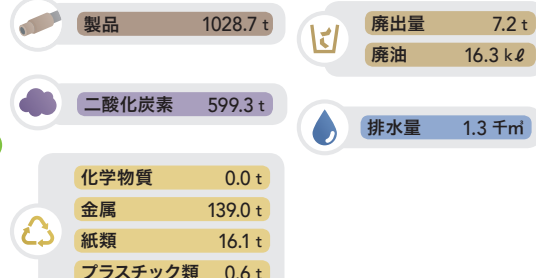
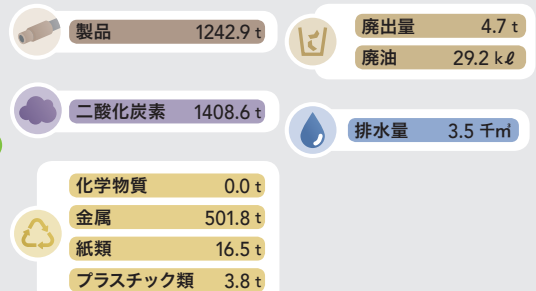
白河日東工器株式会社



株式会社メドテック



OUTPUT



Part

6

独自の技術と設計で皆様の環境保全に貢献します。

製品開発

日東工器は開発面でも環境貢献に力を入れています。環境配慮設計 (DfE=Design for Environment) 評価の採用もその一つです。今後も独自の技術開発で環境保全に努めます。

自社製品コンセプト

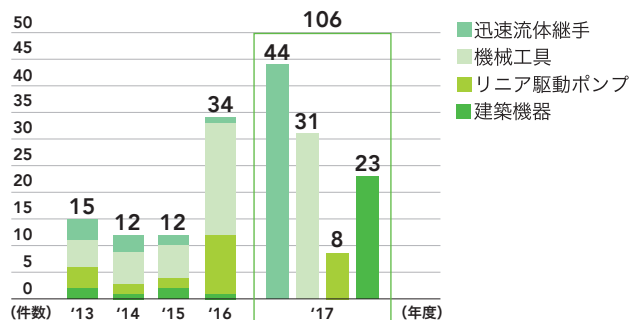
日東工器は創業から半世紀余にわたり、一貫して人間に焦点を当て、独創的な技術を大切にモノづくりを行っています。それら技術を活かした当社製品が目指してきたのは「産業界の省力・省人化、作業環境の改善」であり、使う人の立場で社会に貢献し続けることです。また独創的な技術を追い続けることが、将来の持続可能な発展へとつながっていきます。

今日では「25,000種を超える迅速流体継手」、「鋼材穴あけ加工など各種機械工具と電動ドライバ」、「リニア駆動などの各種ポンプ・コンプレッサと応用製品」、「ドアクローザ (建築機器)」の4事業でさまざまな製品を世の中に送り出し、いずれも高い評価をいただいています。

環境配慮設計

日東工器で新製品や改良製品を設計する際に取り入れているのがDfEです。DfEとは、開発段階からお客様の製品廃棄時までを通した各段階で、環境負荷をできるだけ低減する設計のことです。

2016年度からは、従来製品についてもDfE再評価を実施しています。日東工器ではDfEを2004年度から導入し、2017年度までの14年間で累計314件の環境配慮製品を開発・改良・再評価しました。



1台のドライバで4台分のねじ締め設定が可能

ブラシレスデルボ C シリーズ(電流制御タイプ)

ブラシレスデルボ C シリーズ (電流制御タイプ) は、当社初の電流でトルク値 (ねじ締め力) を制御するドライバです。コントローラにさまざまなトルク値を入力することで、最大4台分の従来品電動ドライバを1台に集約使用することが可能です。

従来、工場の組立において異なった条件のねじ締めをする際は、それぞれのトルク値の電動ドライバ (機械式制御) を複数使用して作業を行っていました。これらを1台に集約できるドライバを要望するお客様の声を反映し、電流制御タイプの開発はスタートしました。

開発当初は容易に製品開発できる見込みでしたが、実際に試作機でユーザーリサーチを行ってみると、予想しなかったたくさんの課題が浮き彫りになりました。

製品開発で苦労した点は、電流制御式は今までに無い制御方式なので、特有の課題が多かったことです。それらを解決するため新たな材料の模索や制御プログラムの変更など、いろいろな方面で解決策を考える必要が生じました。

生産工場でも新たな材料への対応をするために、固定用治具開発などさまざまな生産方法を工夫して、量産することがで

きました。

営業部門によるお客様のユーザーリサーチ対応、開発部門による新たな材料の情報提供、生産部門による新たな生産方法対応と、日東工器グループが一丸となって協力することで完成に至りました。おかげさまで国内のみならず、海外でも好評いただいております。



ECO Topics

L形プラグと カラーバリエーション追加

キューブカブラ

「キューブカブラ」は、樹脂製小型・軽量のカブラです。主要部品の材料・製造において環境面を考慮・工夫した環境配慮製品です。ソケットにプラグを押し込むだけで接続し、ソケット両側の2つのボタンを同時に押すと分離する、簡単・確実な操作が特徴です。

「キューブカブラ」は現在、空圧・医療・理化学機器の配管など多岐にわたって使用されていますが、新たなラインアップとしてL形プラグとカラーバリエーションを追加しました。

L形プラグをラインアップすることで、各種機器内の狭い箇所における配管自由度が向上します。

カラーバリエーションは、4色増やし全5色（アイボリー／ピンク



／黄／青／緑）。健康機器など、装置のデザインや外観を重視するお客様の要望に応えます。また、カラーによる識別で配管の誤接続を防止できます。

これらのラインアップ追加に加えて、全ての樹脂部品に食品衛生法適合材料を使用しました。今まで以上に使い勝手が良い製品、より安心して使用できる製品です。

精密機器のゴミ・ホコリをエアで除去

携帯型バッテリー式除塵器 バッテリーダスター BD-410

「バッテリーダスター BD-410」は小型・軽量の携帯型バッテリー式除塵器です。エア配管や電源の無い現場への持ち込み作業対応が可能。細長い手元ノズルとスパイラルチューブを標準装備しているため、機器の奥まった所での作業が容易です。電子機器などの小さな部品が密集する環境で、ゴミ・ホコリの除去に効果を発揮します。また缶ダスターと違い代替フロンを使わないクリーンエアを供給します。

主な特徴

- ①リチウムイオンバッテリーを採用したコードレス
- ②細長い手元ノズルとスパイラルチューブを標準装備
- ③ドレントラップ構造と独自のポンプ技術でクリーンエアを供給
- ④缶の廃棄・温暖化ガス削減（缶ダスターとの比較）



シリーズ最軽量モデル

空気式高速多針タガネ ジェットタガネ JT-16

「ジェットタガネ」は硬鋼線ニードルの束を往復運動させて、対象物の表面を叩く工具です。

近年溶接技術の向上により、溶接スパッタも少なくなり、従来ほど大きな打撃力を必要としなくなっています。また労働力の負荷軽減が、現場作業に求められています。それら労働環境の変化を踏まえ「JT-16」は、溶接スパッタの剥離に適したジェットタガネシリーズ最軽量モデルとなっています。溶接スパッタの剥離以外にも、塗装やサビ落とし、目荒らしなど、各種の狭い箇所の剥離作業に適しています。

主な特徴

- ①小型で軽量（エアホースを含めて1kg以下）
- ②ニードル（消耗品）の交換が簡単
- ③握りやすい細身のグリップ（径34mm）
- ④打撃力分散を防ぐニードルが広がりにくい新構造



Part

7

安全・品質・環境に配慮し、より効果的な取り組みを目指します。

生産部門の取り組み

メーカーである日東工器にとって、生産現場での改善活動と環境への取り組みは非常に重要です。多岐にわたる製品を生み出すそれぞれの生産拠点でどのような取り組みが行われているのか、国内外の主要な生産拠点を例にとって説明します。

生産改善小集団活動成果発表会

日東工器グループでは、生産会社の生産改善を発表する場として、年一回、各社の小集団活動代表チームが日東工器本社に集まり、活動成果発表会を開催しています。

2017年度は国内3社に加え、タイ国の生産会社であるNitto Kohki Industry (Thailand) (以下NKIT) も初めて参加し、4社による発表会となりました。

NKITは、タイ国にあった日東工器グループの2つの生産会社を、2013年4月に合併して設立しました。今回の発表では、合併前から製造部門で実施していた3S自主活動（整理・整頓・清掃）を、2015年度からNKIT全部門での5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）に発展させ、改善した成果を発表しました。社内共通基準作成や社員教育を繰り返し取り組んだ結果、各部門で改善すべき課題が多数抽出され、改善を実行しています。今後は、抽出した課題のさらなる改善に取り組めます。生産効率が上がり、より成果につながることを期待しています。

国内3社は、製造工程の自動化を改善活動テーマとして取り組みました。

メドテックは、製造工程間の作業ロス時間短縮を実施しました。加工機械を2台以上使用し工程を分割する場合、各加工機械への部品供給は都度作業者が行うため、機械間移動の際に時間的ロスが発生します。工程間の部品供給を自動化した結果、人的労力削減・処理時間の半減・作業待ち時間の解消につながりました。

白河日東工器は、メドテックと同様に製造工程間の自動化

による動作時間短縮を発表しました。加工機械への自動部品供給装置を見直した結果、工程時間が約18%短縮されました。この装置は白河日東工器で設計し、栃木日東工器の技術部門で製作しました。このように日東工器グループ会社は、連携して生産改善に取り組んでいます。

栃木日東工器は、2015年に稼働開始した第7工場への専用コンプレッサ導入・切粉切屑自動運搬設備導入・老朽化した自動倉庫設備の更新と、工場内の省力化・省電力化を図りました。また、個別の生産改善にも意欲的に取り組んでいます。製品組立工程では、作業安全確保と複数機種生産に対応した自動化で、作業時間のロスを大幅に改善しました。組立部門が従来使用していた設備の改良を自ら構想し、技術部門が改良しました。結果は、設備投資費用を必要最小限に抑えて、改善活動として有意義な成果を上げた事例となりました。

日東工器グループの各生産会社は、創意工夫を凝らした独自の改善活動を行うことで、環境負荷軽減に努めています。



国内生産グループ会社の改善活動

●生産改善（栃木日東工器）

栃木日東工器は、社内の老朽化した加工設備の更新を計画的に実施し、生産性の向上を図ることで環境負荷の低減を目指しています。

2017年度も、長期間運用してきた工作機械3台を、最新の工作機械1台へ代替更新しました。この更新では、単に工作機械メーカーから加工設備を購入するだけでなく、生産する製品に最適な付帯設備を自社内で設計・製作・取り付けを行いました。その結果、この設備は、材料供給、切屑の処理、加工完了後の出荷前処理までを自動化・無人化し、加工機の性能をフルに引き出すこと、加工工程に伴う付随作業の軽減を可能にしています。

今回の更新により複数台分の仕事を1台で賄うことができるため、



栃木日東工器全景



栃木日東工器 第7工場

生産能力向上だけでなく、電気量や使用する油量は2分の1～3分の2の減量となりました。また、無人稼働による火災等の安全上の配慮、油の流出等の環境リスクにも事前に配慮・対策し、①環境負荷低減、②生産安全性の向上、③生産能力向上（従来設備の2～3倍）を図りました。

今後も栃木日東工器は、優れた生産性を追求しながら、環境に優しい生産工場になるよう、さまざまな取り組みを実施していきます。

●生産改善（メドテック）

メドテックは、空気式研削機器（ベルトサンダ）の主力製品「ベルトンB-10CL」について組立性向上・作業時間短縮を目的に、生産設備改善を行いました。

まずは、組立部門の小集団生産改善活動で、「組立作業で特に時間が掛かる工程や大変な作業は何か」に焦点を当て、課題を抽出しました。課題は次の2点でした。①ガード部分（※参考写真参照）の半製品組立の際、部品の取り付け時に作業者の移動歩数が多く、作業時間に無駄が生じている。②手作業で強い力が必要な工程があり、作業者が限られてしまう。この2点は作業上の無駄が生じていただけでなく、作業者の体力消耗や時間的制約にも関わっていたため、改善できれば大きな効果が期待できました。

対策案は次の2点です。①作業者が移動せずに手元で全ての部品の取り付け作業を可能にする。②手作業で強い力が必

要な動作を組立治具の使用で解消する。

関係部門でそれぞれの課題に対応する治具を製作し、組立作業でテストした結果、作業者の移動時間低減と、必要だった強い力作業の軽減の両方に有効でした。作業効率改善だけでなく力作業が軽減されたことで、特定の作業者以外でも組立できるようになりました。

普段、当たり前に行っている作業も、「時間短縮」「作業改善」の視点で見直すと、大きな改善につながることを改めて認識する活動となりました。

今後も日東工器グループの生産部門としてさらなる改善に取り組み、人と環境に貢献していきます。



ガード（ベルトンB-10CL部品）

●生産改善（白河日東工器）

白河日東工器は、部品の加工時間・工程の削減、製品の組立作業時間短縮を目的に、老朽化したCNC旋盤を最新のモデル（写真参照）へ更新し、ならびに半自動組立機を社内製作しました。

CNC旋盤は、環境省補助金事業「エコリース促進事業補助金制度」の登録対象設備の中から選定し、導入しました。この制度は、環境省が定める基準を満たした低炭素機器が対象となる制度で、「省エネ性能に優れた設備であること」の証となります。導入の結果、2工程で加工していた部品を1工程に集約し、加工時間の短縮を図ることが可能となりました。同時に、加工能力増とワークストッカー設置による無人化で自動運転時間増による増産、および老朽化設備の更新による修繕作業時間の低減を図ることができました。

半自動組立機は、製品組立作業の一部（接着工程）を自動化することで、従来は人手で行っていた組立作業を省人化しました。接着工程は、作業者の健康面配慮の上でも省人化が必要です。半自動組立機の導入で、作業安全確保と作業時間の短

縮を図ることができました。

環境に配慮した最新設備導入と、省人化・安全確保への取り組みを通じて、人と環境に優しい生産工場を目指しています。



CNC旋盤 最新モデル



海外生産グループ会社のCO₂排出量と電力使用量

NKAM (オーストラリア)	CO ₂ 排出量	89t
	電力使用量	178千kWh
NKIT (タイ)	CO ₂ 排出量	1,050t
	電力使用量	2,348千kWh

Part

8

緑の中の本社・研究所で省エネとともに環境への意識を育みます。

オフィスの取り組み

本社オフィスは、最新の省エネルギー技術を採用しました。
自然の力をうまく取り入れることによって、環境に負荷をかけることなく、
1年を通じてオフィス内を快適な状態に保つことができます。
オフィスでの取り組みを紹介します。

日東工器本社



日東工器の本社社屋は「緑の中の本社・研究所」をコンセプトに建てられました。建物の周りには多くの植物が植えられています。事務棟と研究棟をつなぐ吹き抜けは、外光が降り注ぐ開放感のある空間となっています。さまざまな環境への配慮により、建物総合環境性能評価システム（CASBEE）で最上級の「S」にランクされています。

社屋の環境対応を紹介すると、4階、5階に緑地を設け、また敷地の外周にも約1.5mの幅で緑地を設けています。全体で4000本近くの木々を植えたおかげで、「四季折々楽しめる」と、近隣住民の皆様にも好評です。また外周植栽の一部に近隣住民用のゴミ集積場も設けています。

オフィスには大開口のペアガラスを採用し、日中は外光を取り入れながら熱の出入りを押さえることで、節電につながります。

建物外観の大きな特徴となっているルーバー（電動外部ブラインド）は壁面の放射熱を約90%もカットし、省エネルギー化に貢献します。

オフィスの空調は、天井に設置したアルミ製の放射空調パネルで行います。冷房はパネルに冷水を流し、アルミパネルにより冷やされた冷気で、オフィス内が快適な温度を保ちます。加えてアンダーフロア空調という床下から空調も導入しました。涼しい季節は、空調を停止して、窓際の天井部分と網戸で自然換気を行っています。従来方式の空調に比べて30%程度も省

エネ効果があります。

社屋の給水システムでは、雨水を地下貯水槽に溜め、トイレの排水用に利用しています。その効果で、本社の上水道の使用量は通常より40～50%も削減できます。

車両での取り組み

営業用車両、自動車安全補助装置を積極的に導入

当社では、営業用車両として乗用車、商用車（トラック・キャラバンカー含む）を全国で約150台保有しています。

乗用車は約50台がハイブリッド車、1台は水素燃料電池自動車（FCV車）で、環境に優しい車を採用しています。また、自動車安全補助装置を標準装備として採用し、事故防止に取り組んでいます。

一方、一般的な商用車では、ハイブリッド車や安全補助装置の装備がほとんど進んでおらず、当社でも導入できていません。しかし昨今、自動ブレーキや車線はみ出しアラートなどの安全補助装置が、商用車にも装備され始めましたので、順次切り替え、交通安全教育の充実と併せ、さらなる事故防止を推進しています。



生物多様性への取り組み

日東工器グループは社会や地域の皆様とともに成長する企業でありたいと考えています。
自然との関わりや生物多様性の一助となるボランティア活動を通じて社会や地域に貢献し、
皆様に信頼され、良好な関係を築いていくために、さまざまな活動を行っています。

「やまがた絆の森プロジェクト」に参加

今年も山形県と協定を結ぶ山形ゼロックス(株)主催の「やまがた絆の森プロジェクト」に、メドテックから親子総勢15人が参加しました。参加者は、毎年参加しているリピーターが多く、「絆の森」の成育ぶりを楽しみにしています。

「やまがた絆の森」は「金山杉」で有名な山形県金山町に所在しており、面積は4.3haで東京ドームと同じぐらいの面積です。これまでの8年間で、参加者は延べ700人を超える一大プロジェクトです。

現地では班編成を行い、「保育班」と「自然観察班」に分かれて活動しました。「保育班」は長い鎌を持ち、手慣れた作業で苗木周辺に生えた大きな雑草を刈り取っていきます（これを「下刈り」といいます）。過去に植樹した苗木の成長ぶりが分かる瞬間です。

今年は開始前の短時間でしたが、小学生の子どもたちも「保育班」の作業を体験しました。背丈より高い鎌を持ち、親が見守る中で、下刈りしました。初めての下刈りで子どもたちは緊張しながらも刈った後の達成感に満ちあふれていました。その後、



「自然観察班」として近くの沼や湿地で虫取り網によるトンボ採集や草笛作りなどを体験し、自然と楽しく触れ合いました。

それぞれ活動後は金山杉を使ったウッドバーニング体験です。ウッドバーニングとは、電熱ペンで素材を焦がし、絵を描く技法のことです。好きなキャラクターや模様を平板の金山杉に描きました。子どもが楽しめる体験と思いきや、大人も夢中になる楽しさで時間が経つのを忘れてみんな夢中になりました。今後も「やまがた絆の森」を通じて、自然との関わりや生物多様性の一助となるボランティア活動に参加したいと思います。



技術で、人を想う。

日東工器グループの企業スローガンとして「技術で、人を想う。」を制定しました。このスローガンは、創業当初から大切にしている経営姿勢を表現しています。

約60年間にわたって培ってきた技術力や、高品質への信頼に加えて、今後はより画期的な製品開発やサービスの提案が必要とされています。こうした時代の中で、私たちは「ユーザーの立場に立って考え、行動すること」を今まで以上に大切にしていきます。

Focused on you

海外では「Focused on you」を使用します。ここには、「あなたに注目しています」「あなたに重点を置いています」「あなたを想っています」など、「人を想う」意味を込めています。

※上記の日東工器グループのスローガンを2017年に制定しました

日東工器社会・環境活動関連年表

	活動	区分
1956年	日東工器株式会社設立	—
	省エネ・省人化製品（エアマイクロメーター・カブラ）製造開始	環境製品
1958年	省エネ・省人化製品（ツール）製造開始	環境製品
1973年	省エネ・省人化製品（リニア）製造開始	環境製品
2000年	省エネ・省人化製品（オートヒンジ）製造開始	環境製品
2001年	日東工器グループでISO14001認証取得活動開始	ISO14001
2003年	グリーン調達分科会を設置・活動開始	グリーン調達
2004年	新製品の環境配慮設計（DfE）評価を開始	環境製品
	日東工器株式会社ISO14001認証取得	ISO14001
	グリーン調達ガイドライン0版発行	グリーン調達
	グリーン調達活動開始	グリーン調達
2007年	営業車ハイブリッド車導入開始／2017年現在52台（35%）導入	社会・環境活動
2009年	JAMP（化学物質情報管理活動団体）入会	グリーン調達
	日東工器本社建築新社屋「CASBEE」最高ランク評価に認定	社会・環境活動
2010年	グリーン調達委員会を設置・分科会より活動移行	グリーン調達
	環境報告書の発行	社会・環境活動
	河川敷・近隣清掃活動開始	社会・環境活動
2011年	主要グループ会社ISO14001認証取得完了	ISO14001
	大田区環境イベント「エコフェスタワンダーランド」参加	社会・環境活動
2012年	「やまがた絆の森プロジェクト」参加（株式会社メドテック）	社会・環境活動
2013年	グリーン調達ガイドラインから基準へ名称変更（7版より）	グリーン調達
2014年	製品含有化学物質管理システム（CMS）を構築	グリーン調達
	CMS中期目標（5カ年）策定	グリーン調達
	塩化メチレン使用中止で全生産拠点有害物質使用の全廃達成	グリーン調達
2015年	大阪市環境局より「ごみ減量優良標」受領	社会・環境活動
	「社会・環境報告書」へ名称変更	社会・環境活動
2016年	既存製品のDfE評価（評価見直し）開始	環境製品
	日東工器グループISO14001：2015年度版への移行開始	ISO14001
2017年	大田区廃棄物抑制・リサイクル推進優良事業者表彰受賞	社会・環境活動

日東工器株式会社

- 本社：〒146-8555 東京都大田区仲池上二丁目9番4号
- TEL：03-3755-1111代
- URL：http://www.nitto-kohki.co.jp/